



# 神戸大学 (兵庫県)



日本の国際化の原点、神戸で学ぶ日本文化

## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

#### 1) 歴史と特色

神戸大学は、1902(明治35)年に高等教育機関として設置された神戸高等商業学校を創立の起点としており、120年を超える歴史をもつ国立大学法人です。

「人文・人間科学系」「社会科学系」「自然科学系」、「生命・医学系」の4大学術系列の下に10の学部、15の大学院、1研究環、1研究所と多数のセンターを持つ日本有数の総合大学であり、先進的で充実した教育・研究環境を備えています。

「真摯・自由・協同」の理念の下、人類社会の貢献に資する普遍的価値を有する「知」を創造するとともに、人間性豊かな指導的人材を育成することを目指しており、国際都市として開放性に富む神戸の文化や環境を活かした異文化との交流も重視しています。

#### 2) 教職員・学生数等 (2021年5月現在)

- ・教員数：1,562名
- ・学生数：学部学生 11,493名  
大学院学生 4,493名  
計 15,986名  
<内留学生数 1,179名 (71カ国・地域)>

### ② 国際交流の実績 (2021年5月現在)

海外の基幹大学との学術交流や留学生の交換を積極的に進めており、世界64カ国・地域の著名な大学や研究所など、374機関と学術交流協定を結んでいます。

### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2021年：留学生数 1,179人、日研生 7人  
2020年：留学生数 1,227人、日研生 1人  
2019年：留学生数 1,399人、日研生 6人



### ④ 地域の特徴

神戸大学の所在地である神戸市は、1868年に兵庫港として開港以来、国際貿易の拠点として栄え、海外から多くの人や文化を受入れ、海と山に囲まれた国際都市として発展してきました。

また、神戸市は兵庫県の県庁所在地として、地方の行政、経済、文化、教育の中心的役割を担い、国内でも有数の大都市です。

## ■研修・コースの概要

### ① 研修・コース目的

(a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

### ② 研修・コースの特色

高度な日本語を学ぶ中で、研修旅行や地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加などを

体験し、様々なアプローチで日本を学ぶことが可能です。また、日本人学生と共に行う交流事業等において相互の国際感覚を養うことができます。

### ③ 受入定員

10名 (大使館推薦5名、大学推薦5名)

### ④ 受講希望者の資格、条件等

- ・身分及び専攻  
外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・日本文化を主専攻として履修している学部学生。(ただし、1年次生を除く)
- ・日本語能力及び学業成績  
すでに基礎的な日本語の学習を修了し、本学において日本語で行われる日本語・日本文化等に関する授業を受講できる日本語能力(日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験2級」(新基準「N2」)以上)を有する者で、在籍する大学における学業成績が上位の者。
- ・その他  
大学推薦による受入れは、本学と学術交流協定締結大学からの受入れを優先します。

### ⑤ 達成目標

日本語の教育研究者、日本語通訳者・翻訳者あるいは日本学に関する教育研究者・専門家をめざす留学生に対して、高度な日本語能力と日本文化についての深い知識と理解が得られる教育環境を提供し、習得することを目的としています。

### ⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2022年9月下旬～2023年8月下旬  
(在籍期間：2022年10月1日～2023年8月31日)

## ⑦ 奨学金支給期間

2022年10月 ～ 2023年8月

## ⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬： 渡日

10月： オリエンテーション

日本語・日本文化研修開始

11月： 日本文化体験旅行

12月： 国際学生交流シンポジウム

・日本人学生との交流シンポジウム

2月： 日本文化体験旅行（自由参加）

日本の冬を体験するイベント

6月： 地域研修旅行

日本の文化に触れる研修旅行

7月： 課題研究の報告書作成

8月： 日本語・日本文化研修修了

日研生プログラム修了式・送別会

8月下旬： 帰国

## ⑨ コースの修了要件

秋学期・春学期を通じて、必修科目(120時間)と選択科目(300時間以上)の合わせて420時間以上の修得及び研究課題の発表を修了要件としており、この要件を満たした者に修了証書を授与します。

修了判定に当たっては、国際教育総合センター教員による判定会議で総合的に判定されます。

なお、単位の付与はできませんが、各学期末に成績証明書を交付します。また、留学生の在籍する大学から照会があった場合には、授業内容や成績に関する資料の提供に応じます。



日本語・日本文化研修留学生修了式

## ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

### 1) 研修・コース科目の特徴

研修科目は、日本語・日本文化に関する研究を行い、修了レポート作成につながるための「課題研究」と、日本語能力を高めるための日本語科目、そして日本事情・日本文化及びその関連領域について学べる専門科目や、日本人学生との必修科目から成ります。このうち、「課題研究」と、日本語科目の作文科目（中上級または上級レベル）を必修科目とし、他の科目は研修生の日本語能力や関心に応じて自由に選択できる、選択科目です。

### 2) 研修・コース開設科目

#### I) 必須科目（120時間）

・課題研究（後期30時間、前期30時間）

学期ごとに所定のテーマについて学びながら、担当教員の指導の下に自らの関心に従って研究を行い、その成果を発表し、修了レポートを作成します。各学期のテーマは下記を予定しています。

**秋学期のテーマ：ジェンダー問題**

日本の社会・文化に関する理解を深めるために、自国と日本のジェンダー問題について資料を収集し、日研生同士のディスカッションを通じて両国の比較をした結果を国際人間科学部の授業「男女共同参画とジェンダー」において、日本人の学部学生に発表してから、意見交換を行います。

**春学期のテーマ：地域研究**

関心のあるテーマを設定し、自律的に資料の収集・分析・考察を行います。毎週、日研生同士により発表し、意見交換を行い、中間発表・最終発表を経て、研究成果を修了レポートとしてまとめます。

・日本語作文科目（後期30時間、前期30時間）

課題研究の修了レポートを書き上げるために、文章作成技術を学ぶ科目を必修としており、

- ・「日本語I A/B」
- ・「日本語V A/B」
- ・「日本語作文中上級A/B」

の中から履修することが必要です。

## II) 選択科目（300時間以上）

研修の大きな特徴は、国際教育総合センターが提供する日本語科目も、文学部・国際人間科学部が提供する日本事情・日本文化に関する科目も履修できることです。

・日本語科目

基本的にレベルごとに技能・目的別に開講されています。研修生のレベルに応じて、中級から上級レベルの科目を自由に履修できます。

日本語運用能力を補強することを目的として、文法、会話表現、読解、文章表現、漢字語彙と技能別に学習します。上級では学術的なトピックを中心とした日本語学習を通して、大学において教育・研究を円滑に進めることのできる日本語運用能力を習得できます。

過去に日研生が履修した日本語科目（例）

- 集中日本語（中級・中上級）
- 聴解・会話・読解・作文・文法
- 日本語特別演習（N2・N1対策）
- 日本語特別演習（ビジネス日本語）

・日本事情・日本文化関連専門科目

主として本学の文学部・国際人間科学部で開講されている、日本事情・日本文化に関連する専門科目の中から、研修生各自の問題意識・関心に応じて履修できます。これらの科目の履修により、日本文化に関する知識を深めるとともに、日本語・日本文化の修得に必要な方法論・技能等を習得し、日本語・日本文化研究のための基礎を養うことができます。

文学部では、人間が作り上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。国際人間科学部では、様々な専門分野からグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションを取り、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。

過去に日研究生が履修した専門科目（例）

#### 文学部

・日本社会文化演習・国文学特殊講義・社会学特殊講義・心理学特殊講義

#### 国際人間科学部

グローバルコミュニケーション基礎演習・グローバル化と現代世界・翻訳コミュニケーション論

※他学部の授業も聴講できる可能性があります。

### 3) 見学、地域交流等の参加型科目

科目としての見学、地域交流等はありませんが、任意参加で各種イベント、シンポジウム、研修があるので、積極的に参加することをお勧めします。

### 4) 日本人学生との共修等の機会



グローバルリーダーシップ育成基礎演習科目

日本人学生との共修科目である「グローバルリーダーシップ育成基礎演習科目」もあります。この科目では、12月に行われる日本語・英語のバイリンガルによる神戸大学国際学生交流シンポジウムの企画・運営に携わることを通じて、グローバル人材としての素養を身に付けることができます。

本授業の到達目標：

・複眼的に思考する能力：日本語・英語、その他の言語の文献・資料、映像等を検証し、新型コロナウイルス感染症がもたらしている様々な社会的課題を多様な視点から捉え直します。

・多様性と地球的課題を理解する能力：シンポジウムのテーマについて多様な視点から理解を深め、個々の専門分野の特性を活かしながらどのようにリーダーシップを発揮していくことが可能なのか考究します。

・協働して実践する能力：学部や専門、出身国（地域）が異なる者同士が協働で研究課題に取り組むことを通じて、プロジェクト遂行のために良好な人間関係を構築し、「協働する姿勢・能力」を身に付けます。

#### ① 指導体制

・日研究生担当教員のリチャード・ハリソン教授が当プログラム全体を統括します。

##### a. 学業面

コース期間を通して「課題研究」の指導を行います。

##### b. 生活面

コース期間を通して、上記の日研究生担当教員及び国際教育総合センター（相談指導ユニット）の専任教員2名が必要に応じて相談業務に当たります。

\*相談指導ユニット専任教員

- ・河合 成雄 教授
- ・黒田 千晴 准教授

### ■ 宿 舎

神戸大学では、留学生数の増加に伴い、希望者全員が大学の留学生用宿舎に入居できるとは限りません。なお、大学では夫婦・家族室については用意できません。

- ・入居期間は11ヶ月間です。
- ・寄宿料：月額 4,700円～21,000円(2021年度)  
宿舎によっては、共益費等が必要な場合があります。
- ・宿舎により異なりますが、机、イス、ベッド、冷蔵庫、洗濯機等が備わっています。
- ・通学時間は、電車等を利用して30～50分です。
- ・その他（光熱水費等は各自で負担となります。）

### ■ 修了生へのフォローアップ

修了生には、本学の海外同窓会ネットワークへの加入（登録）を呼びかけ、本学の各種情報をお知らせすると共に進学や就職に関する相談などのキャリアサポートも行っています。さらに、同窓生間の情報交換に役立てています。

日研究生プログラムを修了した留学生が、在学する大学を卒業後に日本の大学院への進学を考える機会を提供します。

本学を修了した111名のうち、半数以上が日本企業や日本関連の仕事に就き、10名以上が、日本の大学院に進学しています。

Facebook: Kobe University International Alumni Association

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalAlumni>

### ■ 問合せ先

神戸大学国際部国際交流課留学生交流グループ

住 所：〒 657-8501

兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

TEL： +81-78-803-5263（直通）

FAX： +81-78-803-5289

E-mail：[intl-suishin@office.kobe-u.ac.jp](mailto:intl-suishin@office.kobe-u.ac.jp)

実施担当：

国際教育総合センター（日本語等教育ユニット）

E-mail：[harrison@kobe-u.ac.jp](mailto:harrison@kobe-u.ac.jp)

神戸大学HP：

<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学国際連携推進機構国際教育総合センターHP：

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/ipiep/edu/index.html>

Facebook：

Kobe University Center for International Education

<https://www.facebook.com/KobeUniversityInternationalStudentCenter?ref=hl%2F>